

社会保障制度に関する 国民意識調査報告書

平成20年11月4日

◆ Contents ◆

1.調査概要	2
2-1.社会保障制度総論について	3
2-2.各制度間の満足度比較 年代別	5
2-3.各制度間の対策緊急度比較 年代別	6
2-4.社会保障制度の問題点 年代別	7
3-1.雇用・年金制度について	8
3-2.公的年金制度に対する意見 性別/年代別	9
3-3.公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点	10
4-1.医療制度について	11
4-2.医療制度に関する優先課題 性別/年代別	12
4-3.医療制度に関する問題点・改善点	13
5-1.介護制度について	14
5-2.介護保険制度に関する優先課題 性別/年代別	15
5-3.介護保険制度に関する問題点・改善点	16
6-1.少子化対策について	17
6-2.少子化対策への関心度 性別/年代別	18
6-3.少子化対策の負担のあり方 性別/年代別	19
6-4.少子化対策に関する優先課題 性別/年代別	20
6-5.少子化対策に関する問題点・改善点	21
参考:Web一対比較評価法について	22

報告書内の記述について

- SA ■ 単一回答
- MA ■ 複数回答
- FA ■ 自由記述回答

分析軸のn数(回答者数)が、分析に耐え得る数を満たしていない場合(本調査ではn=50未満とします)、**SB** を表示しております。
この箇所については、あくまでも**参考値**としてご覧ください。

1-1.調査概要

◆調査目的： 社会保障制度の課題、今後のあり方について国民の意識を詳細に分析する

◆調査方法： インターネットWeb定量調査

◆調査対象： 20歳以上 男女

◆エリア： 全国

◆回答者数： 2,000人（内訳は人口動態構成比に極力近似）

◆調査項目：
・社会保障制度に対する関心度/満足度
・満足している/緊急に取り組むべき分野
・社会保障制度の問題点
・各制度の給付と負担のバランスについて
・各制度の高齢者と現役世代の負担のあり方
・各制度における優先課題
・各制度の問題点/改善点

◆実査時期： 2008年8月29日（金）～2008年9月1日（月）

◆調査機関： ヤフーバリューインサイト株式会社

	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
男性	147	183	154	176	304	964
女性	141	178	152	179	386	1,036
計	289	361	306	355	690	2,000

※平成19年10月1日現在 総務省 統計発表資料より性別、年代別の構成比に準じて割付

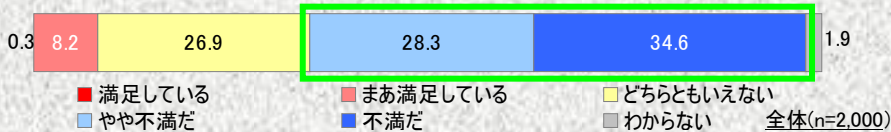
2-1. 社会保障制度総論について

関心度



- 現在の社会保障制度に「関心がある」人は約半数の**49%**。「まあ関心がある」を含めると、全体の**89%**の人が**関心をもっている**。
- 性別では、「関心がある」人は女性よりも**男性の方が4ポイントほど高くなっている**が、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性**87%**、女性**91%**と女性の方が高くなっている。
- 年代別では、**年代が高くなるほど関心も高くなる傾向**。「関心がある」・「まあ関心がある」の合計でみると、20代が**78%**に対して、70代は**97%**と20ポイント近くの開きがみられ、世代間での関心度の差が**顕著**。

満足度



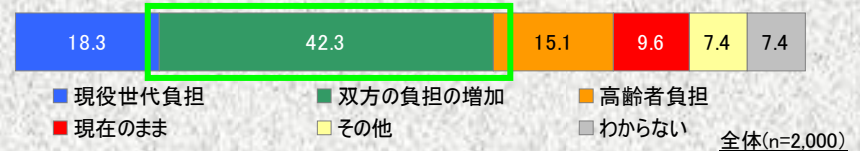
- 現在の社会保障制度に対して「満足」・「まあ満足」と答えた人は**8%**にとどまる。
- 「不満だ」と回答した人は**35%**で「やや不満だ」を含めると**全体の63%の人が不満を抱いている**。
- 性別では、大きな差異はみられない。
- **60代以上で「満足」・「まあ満足」と答えた人は10%~20%と他世代よりも高め**。
一方、**30代~50代は7割近くの人が不満を抱いているという結果**。

給付と負担のバランス



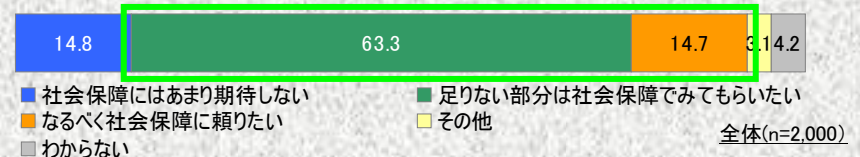
- 「給付水準を保つために、ある程度の負担増加はやむを得ない」と考える人が**最も多く43%**。大別すると、負担増について**反対が37%**、**承認が46%**となっている。

高齢者と現役世代の負担のあり方



- 「**高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない**」と考える人が**最も多く42%**。

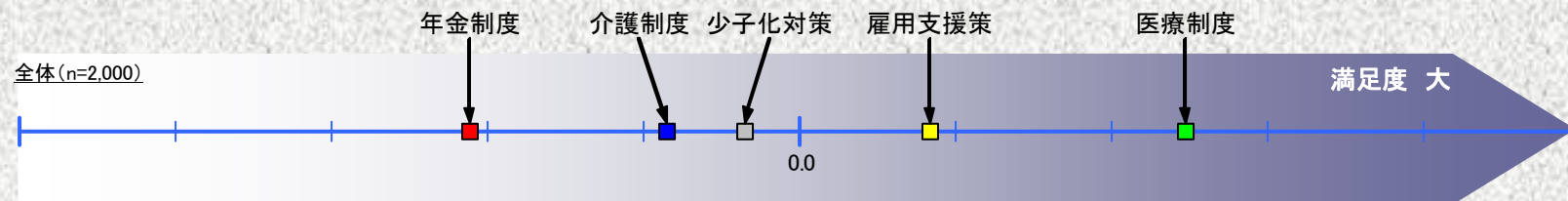
社会保障制度のあり方



- 「基本的には自分でなんとかするが、足りない部分は**社会保障でみてもらいたい**」と考える人が**最も多く63%**。
社会保障制度に頼りたいと考える人は、78%で8割近くにのぼっている。

2-1. 社会保障制度総論について

各制度間の満足度比較

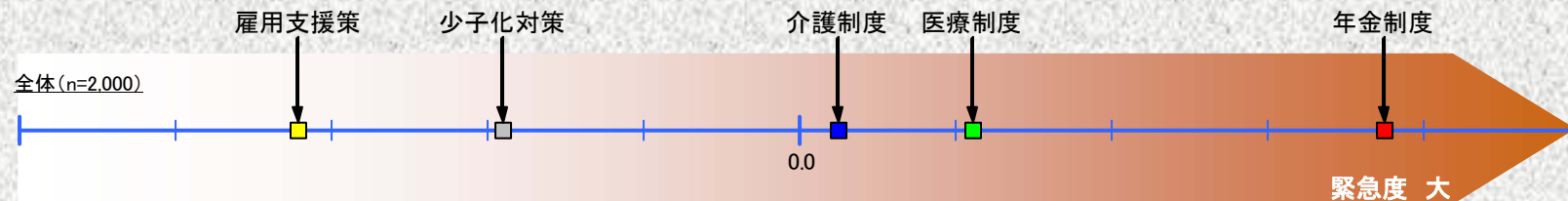


軸上の「0.0」は回答者による選択率がちょうど5割であることを意味しており、「0.0」より右側が選択率が5割より高く、左側が5割より低いということを意味している。つまり、「0.0」から右側に離れるほど、より多くの回答者がその選択肢を選んだことを表す。

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>

- 「年金制度」「医療制度」「介護制度」「雇用支援策」「少子化対策(子育て支援)」の5つの制度・支援策から2つずつランダムに提示し、“**より満足している分野**”を選択してもらい、その評価とそれぞれの距離感を確認した。
- 最も満足度が高かったのは、「**医療制度**」で、次点の「雇用支援策」を大きく引き離している。
- 続いて、「少子化対策」、「介護制度」となり、最も満足度が低かったのは、「**年金制度**」であった。

各制度間の対策緊急度比較



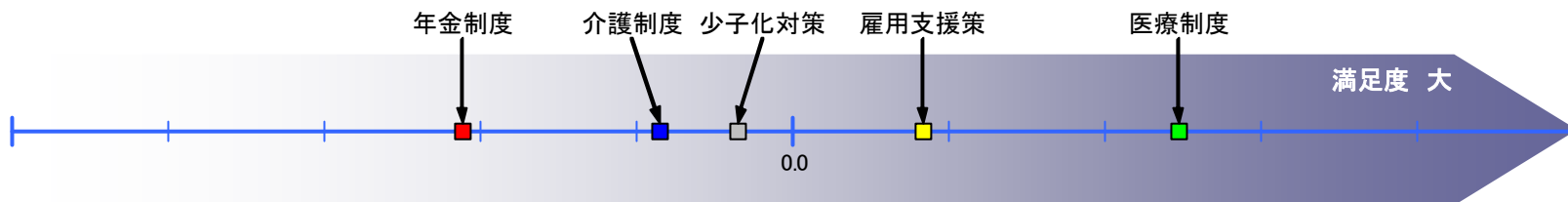
- 同様に、5つの制度・支援策の中で2つずつランダムに提示し、“**緊急に取り組むべき分野**”を選択してもらい、その評価とそれぞれの距離感を確認した。
- 上記、“満足している分野”において最下位であった「**年金制度**」が、対策を緊急に要すると考える分野としては、2番目の「医療制度」を大きく引き離しており、満足感を得られないと同時に危機感をもっている様子。
- 一方、“満足している分野”でトップとなった「医療制度」は、ここでも2番目に位置しており、ある程度満足しているものの、なお取り組むべき課題は残っているとの認識をもっている様子。

2-2.各制度間の満足度比較 年代別

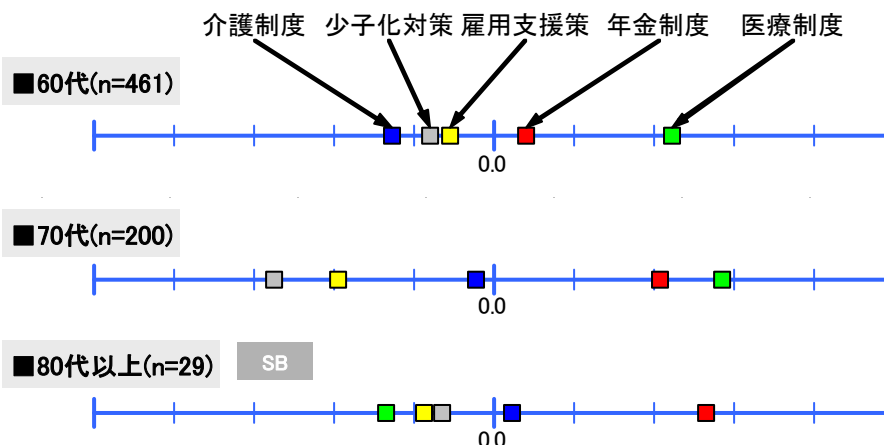
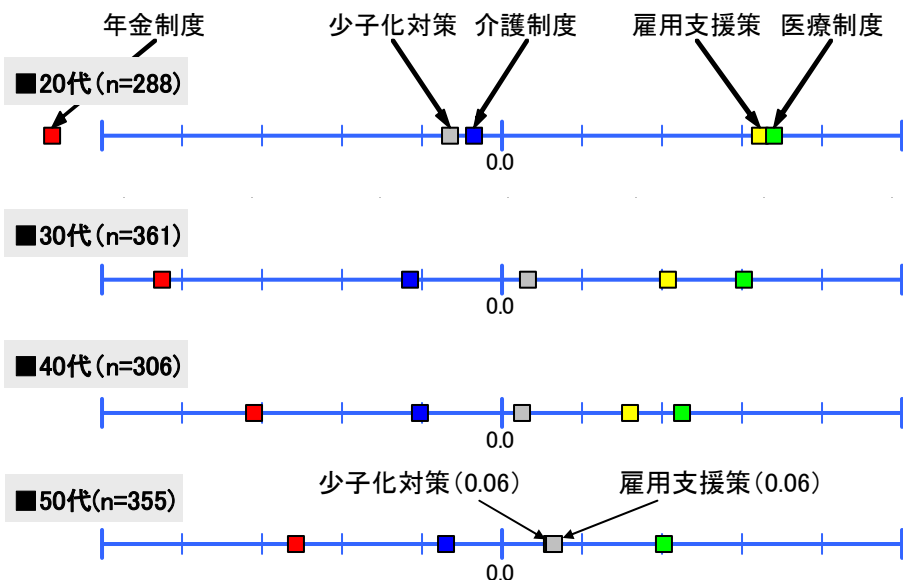
- 年代別では、50代以下と60代以上で傾向が異なる。
- 50代以下では、「年金制度」の満足度が最も低く、年代が下がるにつれ相対的な満足度が下がるのに対し、60代以上では「年金制度」の満足度が他分野に比べて高いことが特徴的。

■満足している分野_全体(n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>



26

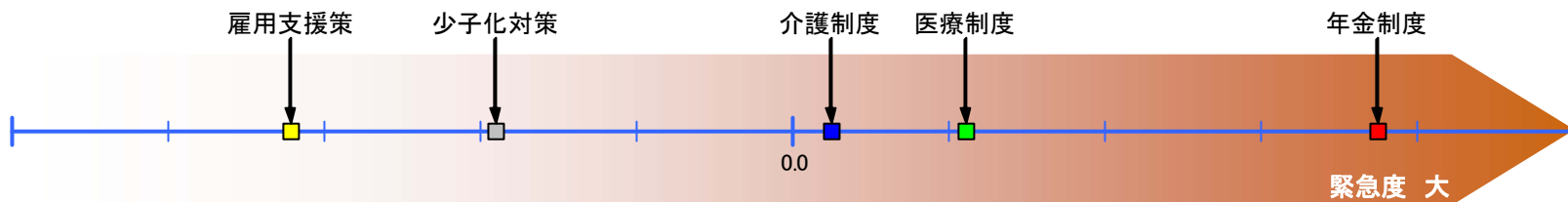


2-3.各制度間の対策緊急度比較 年代別

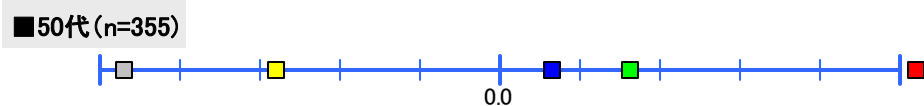
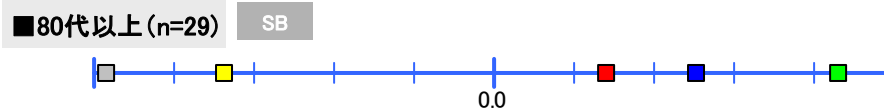
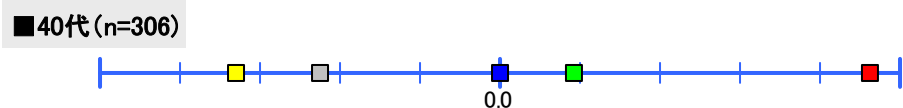
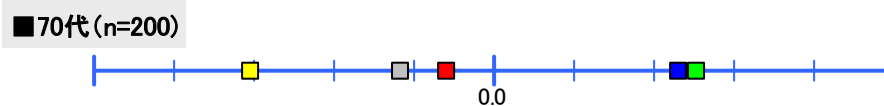
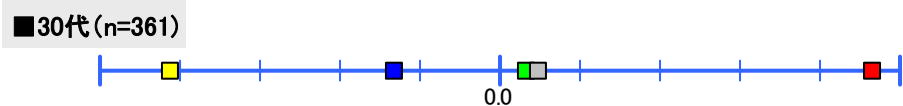
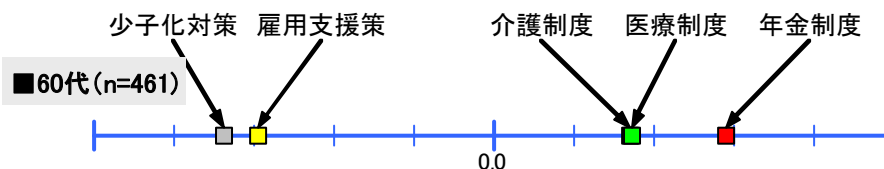
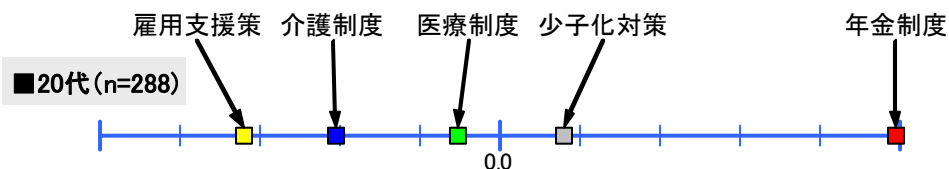
- 50代以下では、「年金制度」が緊急に取り組むべきものとして一番に挙げられている。
- 20代、30代の若年層では、「少子化対策」が「年金制度」に次いで対策が緊急に必要な分野と考えている。
- 「介護制度」「医療制度」については、年代が高くなるほど緊急に取り組むべきと考える人が多くなる。

■緊急に取り組むべき分野_全体(n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>



27

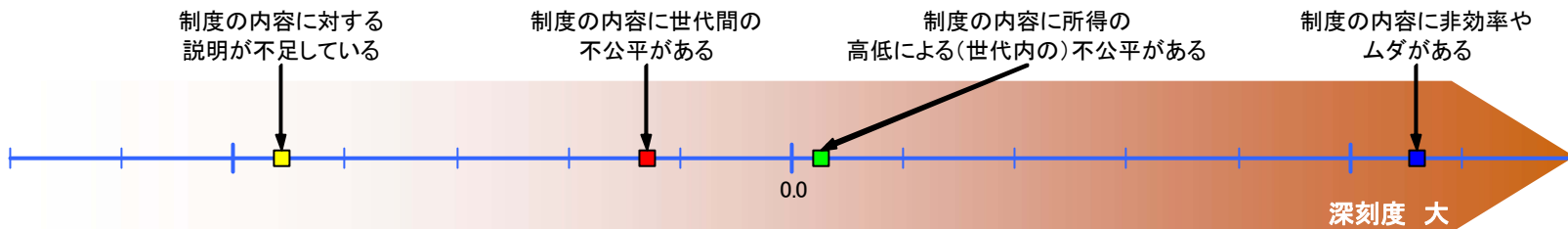


2-4. 社会保障制度の問題点 年代別

- どの年代においても「制度の内容に非効率やムダがある」と考える人が最も多く、全体と同様の順で項目が並んでいる。
- 「制度の内容に世代間の不公平がある」、「制度の内容に所得の高低による(世代内の)不公平がある」については、40代で最も深刻度が高い。

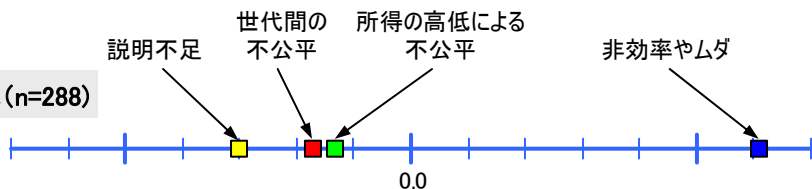
■問題が深刻である_全体 (n=2,000)

<※ここでの分析手法(Web一対比較評価法)については、P22~を参照。>

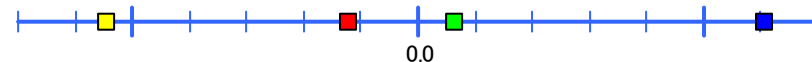


28

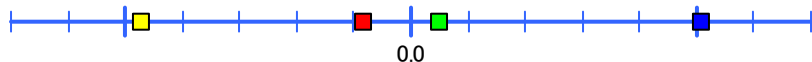
■20代 (n=288)



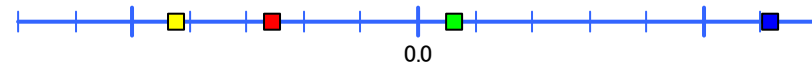
■60代 (n=461)



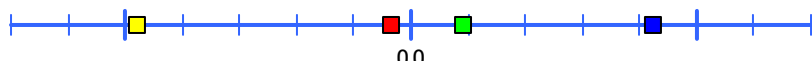
■30代 (n=361)



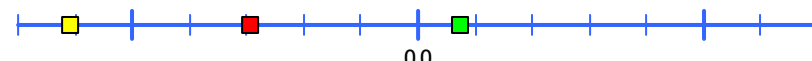
■70代 (n=200)



■40代 (n=306)



■80代以上 (n=29)

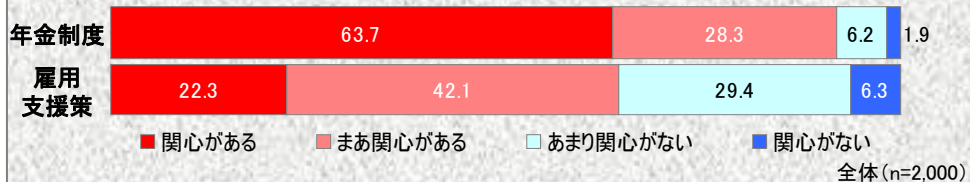


■50代 (n=355)



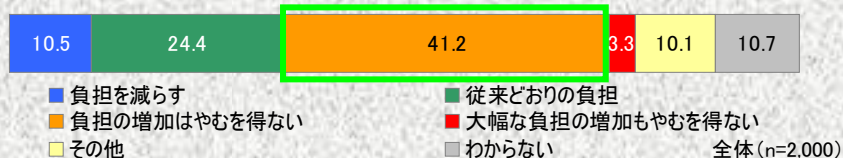
3-1. 雇用・年金制度について

関心度



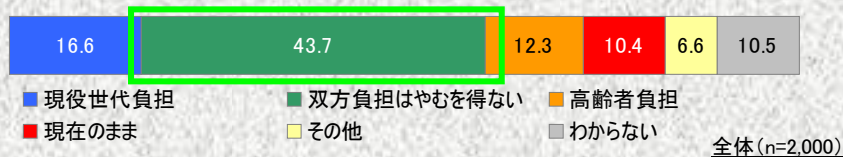
- 年金制度に「関心がある」人は**64%**。「まあ関心がある」人を含めると全体の**92%**の人が**関心をもっている**。
- 年代が高くなるほど関心も高くなる傾向。
- 雇用支援策に「関心がある」人は**22%**。「まあ関心がある」人を含めると全体の**64%**の人が**関心をもっている**。
- 女性の方が関心は高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では男性を6ポイント上回っている。
- 年代別では、20代、30代の**若年層で関心が高め**。

給付と負担のバランス



- 「給付水準を保つために、ある程度の負担増加はやむを得ない」と考える人が最も多く**41%**。大別すると、負担増について**反対が35%**、**容認が45%**となっている。

高齢者と現役世代の負担のあり方

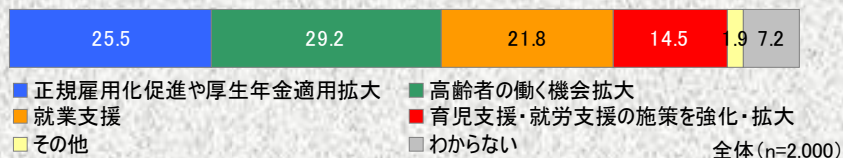


- 「高齢者と現役世代**双方の負担**の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く**44%**。

問題点・改善点

- 自由回答を大別すると「年金制度」「年金負担」「年金給付」「雇用支援策」に大きく分かれた。
- 「年金制度」に関しては、“無駄遣いを減らすべき”“年金制度の抜本的な改革が不可欠”など**年金制度自体の不信感**からくる意見が目立つ。
- 「雇用支援策」に関しては、まずは“雇用の拡大”“正規雇用の促進”を挙げる人が多い。その他、“定年の引き上げ”、“育児支援策の強化/女性の雇用支援”などが続く。
- “年金未払い問題の解決”を望む声も挙がっている。

雇用支援策に関する優先課題

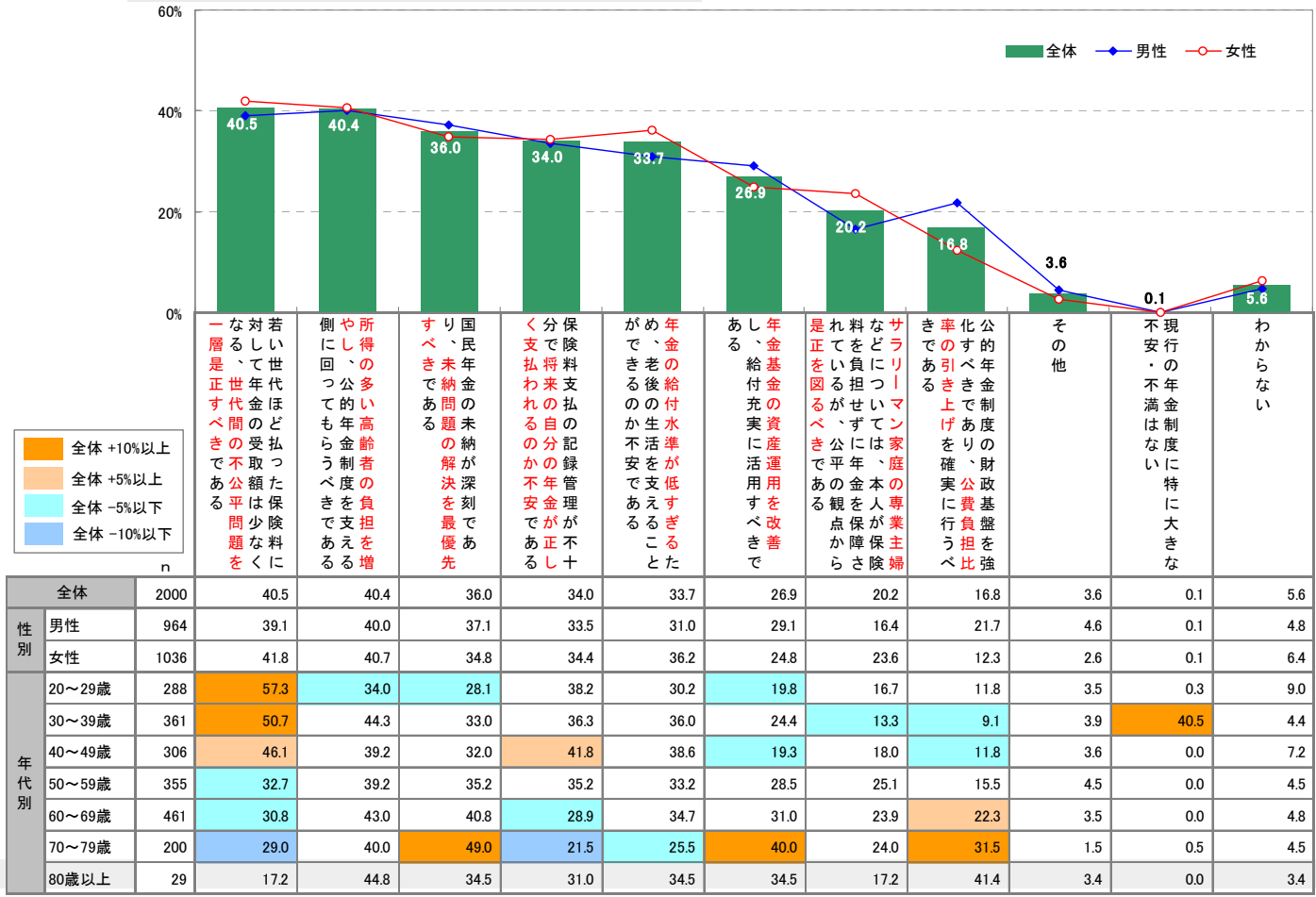


- 今後最優先すべき雇用支援策についての課題としては**意見が分かれている**。

3-2. 公的年金制度に対する意見 性別/年代別

- 公的年金制度に対する意見を確認したところ、「世代間の不公平問題を一層是正すべき」(41%)、「所得の多い高齢者の負担を増やす」(41%)など負担額の是正に関する項目が上位に挙がっている。その他、「未納問題の解決を最優先すべき」(36%)、「将来の自分の年金が正しく支払われるのか不安」(34%)などが続く。
- 性別でみると、女性は、「サラリーマン家庭の専業主婦の保険料負担の是正」を挙げる人が、男性よりも多く24%となっている。
- 若い世代ほど、「世代間の不公平問題を一層是正すべき」と考える人が多く、20代では、57%にのぼっており、70代と比べると30ポイント近く高い。

公的年金制度に対する意見(3つまで回答可) <性別/年代別>



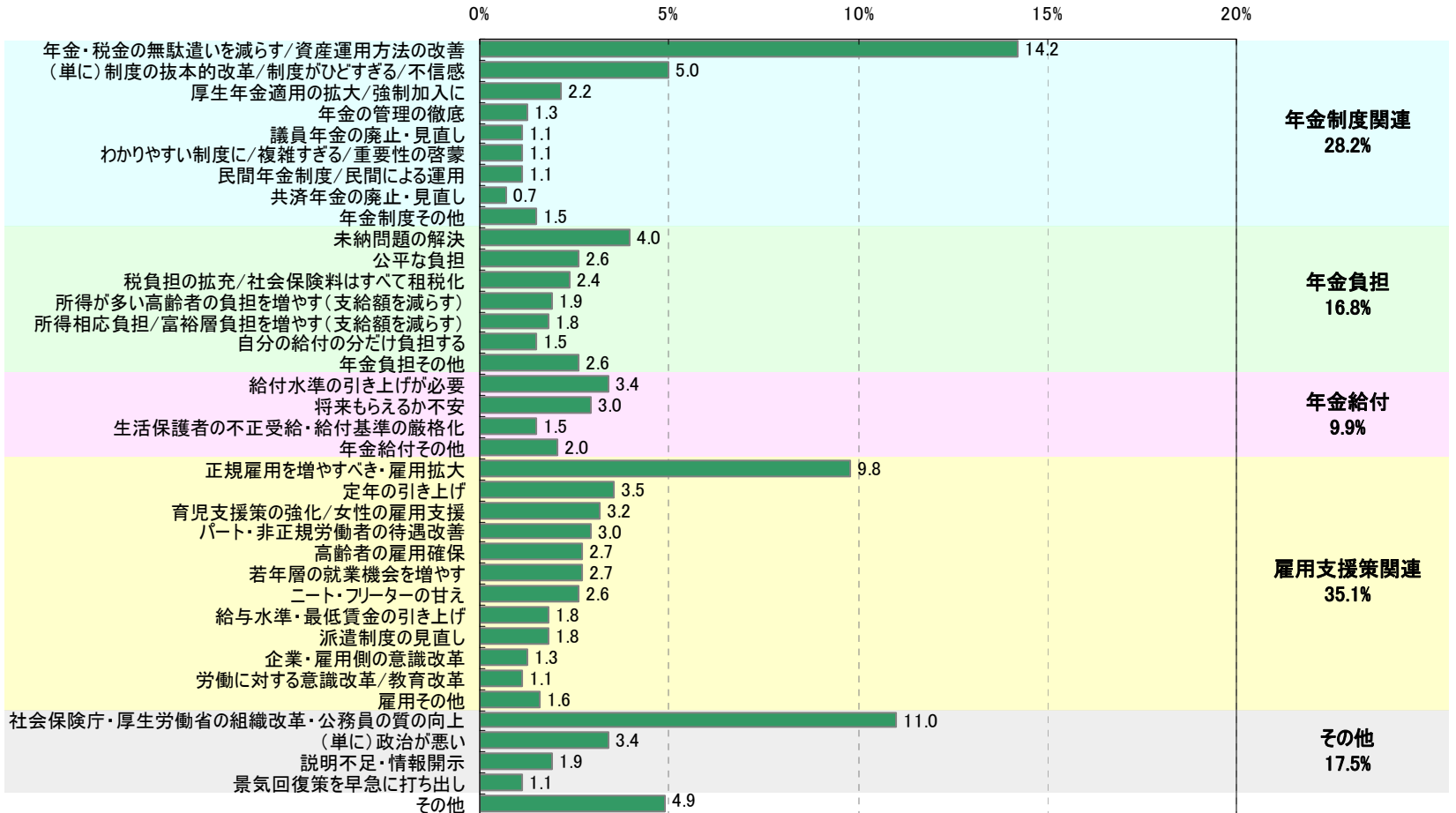
3-3.公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点

- 公的年金制度・雇用支援策に関する問題点・改善点について自由記述で回答を求めたところ、「雇用支援策」「年金制度」に関する記述がそれぞれ35%、28%であった。
- 「雇用支援策」では、“正規雇用化の促進”を挙げる人が多く、その他“定年の引き上げ”や“育児支援策の強化/女性の雇用支援”などの回答が多くみられる。
- 「年金制度」では、“無駄遣いや無駄な資産運用の改善”を挙げる人が最も多く、“年金制度自体への不信感”なども目立っている。

自由記述での回答
結果を定量化

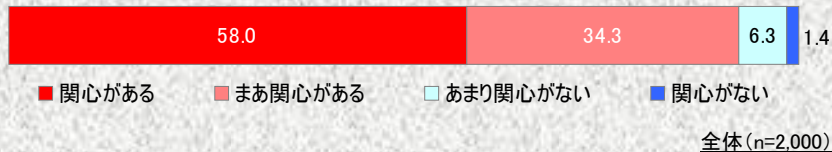
※「特になし」「わからない」を除いて集計

公的年金・雇用支援策に関する問題点・改善点_(n=880)



4-1. 医療制度について

関心度



- 医療制度に「関心がある」人は**58%**。「まあ関心がある」人を含めると全体の**92%**の人が**関心をもっている**。
- 女性の方がやや関心が高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性90%、女性94%と女性の方がやや高くなっている。
- 年代別では、**年代が高くなるほど関心も高くなる傾向**。「関心がある」と回答した人は、20代が38%に対して、70代は82%と40ポイント以上の開きが見られ、世代間での医療制度への関心度の差が大きい。

給付と負担のバランス

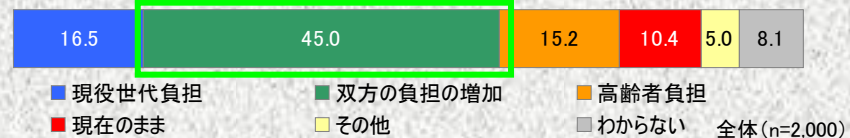


- 「給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く**41%**。
- 負担増に関して、大別すると、**反対が43%、容認が43%**と拮抗している。

問題点・改善点

- 自由回答を大別すると「医師・看護師関連」「医療サービス」「制度改革」に大きく分かれた。
- 「医療サービス」に関しては、“無駄な医療”“真に必要な人が診療を受けにくい”などの他、“医療費が高すぎる”“負担が大きい”といった意見が多くみられる。
- 「医師・看護師関連」に関しては、“医師・看護師不足”を問題点として挙げる人が全体の中でも最も多く、気にしている様子。その他、“過重労働”や“待遇改善”など**現場の労働環境の改善**を求める声も多い。

高齢者と現役世代の負担のあり方



- 「**高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない**」と考える人が最も多く**45%**。
- 現役世代への負担を求める人が17%、高齢者への負担を求める人が15%で**ほぼ同率**となっている。